【公表】

進捗状況の概要（１ページ以内）
本事業は「ケースメソッド」と「フィールドメソッド」を教育の両輪としてインテンシブかつ相乗的に組み合わせて実践するものであり，計画を上回る形で，令和５年度の実績を上げた。 令和５年度の「教育面」での実績は次の通りである。令和５年度に新規開講を計画した「フィールド基礎」「事業構想基礎」は全て開講した(5/7 科目の開講目標を達成)。その上で，学修到達度のアセスメントを実施し，学修成果を確認した。令和６年度は，引き続き，授業内容や開講のタイミング等を改善する。令和 5 年 12 月にはビジネスプランコンテストを開催した。今後さらに参加者数を増やし，レベルアップを図りつつ，令和 6 年度に新規に開講される「事業構想実践」及び「起業家行動論」との擦り合わせを図る。インテンシブ教育の他学部への展開について，令和５年度は，経営学部への導入を実現した。商学部独自の取り組みを他学部にも展開することは本事業の狙い（商学部の学生募集改善）と相容れないこともあり，当初より計画していない。経営学部では，経営情報学科との連携を図りつつ，AI を絡めた文理融合教育を推進する方向で，インテンシブ授業「AI 実践」を開講した。令和６年度においては全ての学部でインテンシブ教育を実施することを計画している。 令和５年度の「評価面」に関する実績は，次の通りである。4 年次の学生を対象にした「LG（Learning Goals）到達度評価」を例年通り実施し，インテンシブ授業「フィールド実践」の２年次の受講生を対象にした「LG 到達度評価」も実施し，一定の学修成果を確認し，改善課題を見出した。令和 5 年度委員現地視察の際に頂戴したアドバイス（学生の LG に対する意識づけを強化すべき）を踏まえ，令和 6 年度には学生による LG 評価を実施する。さらに「フィールド実践」の授業においては，「学修行動調査」を追加で実施した。この「学修行動調査」は計画を上回る取り組みとなる。その他，令和 5 年度の本事業の達成状況等を客観的に評価するために，外部評価を実施する（6～7 月に実施予定）。 令和年５度の「成果公表」に関する実績は，次の通りである。令和５年度は，計画通り，「フィールドメソッド・ハンドブック」を制作し，全国の高校等に配布した。加えて「中間報告会兼フィールドメソッドシンポジウム」を開催し，インテンシブ事業の取り組みに示唆を得る機会となった。 令和 5 年度の計画を上回る取り組みとしては，「学修行動調査」に加え，採択校同士の連携を強化する取り組みを実施した。千葉大学・新潟大学・金沢大学・本学の４校で，学生による課題・テーマ・イシュー設定のあり方を情報交換・検討する取り組みを継続的に実施した。加えて，名古屋商科大学の商学部が展開している「ケースメソッド」と「フィールドメソッド」を組み合わせる教育を，愛知県の商業高校（15 校）に導入する取り組み（導入支援業務・コンサルティング業務）を展開した。 採択時の 4 つの留意事項への対応について，1 つ目の「URA の位置付け・役割」については，「インテンシブ教育コーディネーター」としての任を果たす方向で修正した。2 つ目の「科目や教育課程の編成」については，新規開講の「フィールド基礎」「事業構想基礎」はゼロベースで内容を見直した。3 つ目の「本事業の全学への効果的な波及の具体策」については，令和 5 年度，経営学部において「AI 実践」を開講した。4 つ目の「学生の主体性の涵養・ケースとフィールドの統合・学修者本位の学びの実現・学生へのケアの充実」については，授業内容や教授法を工夫し，「学修行動調査」にてポジティブな評価を得ていることを確認した。